

令和2年度

第4回 関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会

日 時：令和3年3月15日（月）

14：00～15：30

場 所：関東森林管理局ほか

次 第

1 開 会

2 議 事

（1）木材の需給動向について

- ① 木材の需給、価格等の動向
- ② 関東局における国有林材の供給状況

（2）国有林材の供給調整について

3 閉 会

令和2年度 第4回 関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会 出席者名簿

(五十音順・敬称略)

所 属 ・ 役 職 名	氏 名
株式会社フジイチ 代表取締役社長	石野 秀一
福島県森林組合連合会 常務理事	遠藤 誠寿
栃木県林業木材産業課 木材産業担当 課長補佐	川上 晴代
協和木材株式会社 代表取締役社長	佐川 廣興
東京合板工業組合 業務統括室長	佐々木 祐子
茨城県森林組合連合会 代表理事専務	佐藤 信聡
群馬県森林組合連合会 木材部長	鈴木 克志
有限会社平子商店 専務	平子 美穂子
栃木県森林組合連合会 木材流通課 課長	田中 幸夫
国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 研究コーディネーター(地域イノベーション推進担当)	堀 靖人

関東森林管理局

官 職	氏 名
森林整備部長	山口 輝文
資源活用課長	古澤 茂昌
企画官(木材需給対策)	渋谷 英夫
素材供給係長	齋藤 悠
供給計画係	濱砂 俊介

(別紙)

令和2年度 第4回関東森林管理局国有林材供給調整検討委員会 議事概要

1 開催日時・場所

令和3年3月15日(月) 14:00~15:30

関東森林管理局 資源活用課事務室及び各委員事務室等(書面及びWEB会議)

2 議題

- (1) 木材の需給動向について
- (2) 国有林材の供給調整について

3 検討結果

需要動向や各委員からの状況報告等によれば、木材の需要は回復傾向にあり価格も安定してきている。各委員や各県等からは需要に応じた供給を望む意見も多い。他方、一部では木材価格の下落や高騰の懸念も消えていない。このような点を踏まえ、立木販売の買受者が市況や需要に応じて伐採時期を選択できるよう立木販売箇所の搬出期間を無償延長する措置は妥当であるが、引き続き原木の在庫状況や各都県の意向などを把握しつつ、地域の状況を踏まえ柔軟に対応する必要がある。

4 概要(状況報告等)

(1) 木材の需給動向について

- コロナ禍の影響は残っているが、物により不足感がある。年々取扱う材が太くなっており、地域で主流となっている径級では値が上がっている。示されている径級・価格は実態と違うように感じる。
- 素材の入荷はやや回復傾向である。また、原木価格は、入荷が順調であり工場の在庫が多いことから下げ傾向であるが、製品価格は安値から回復傾向である。
- 今年度はコロナ禍の先行き不透明感から主伐を控えたため原木不足となった。
この解消に向け補正予算により搬出間伐への支援を決めた。今後、需要と供給がバランスすることに期待している。
- カナダのSPFの価格は通常時の2倍となり、外材の価格高騰が心配であるが、この機会には国産材がシェアを奪い返すチャンスである。
- 合板製品需要は徐々に回復して落ち着いてきた。現在、合板価格は落ち着いているが、原木の手当て及び価格上昇によりコストアップとなり、今後上昇傾向の見通しである。
輸入品から国産材への切り替えがどこまで進むか、昨年より良い環境になっていくと期待している。
- 今年度の入荷及び販売量は、回復して前年度並みになる見通しである。原木価格は、コロナ禍の不安感が先行したため一時下落したが、11月以降は、ほぼ例年並みの水準である。
原木の安定的な入荷が確保できれば今年度並みの取扱量、価格で推移すると考えており、今後の公共需要にも期待したい。

(2) 国有林材の供給調整について

- 供給調整の取組は上手くいったと思う。令和3年度の国有林材の供給調整は、今の段階では必要ないが、仮にコロナ以上の有事となった場合は、今回並に迅速に対応すれば良いと思う。
- 輸入材が減少しており、建築材については、国産材の出材を増やし外材に替わるシェア獲得のチャンスと期待している。
令和3年度の国有林材の供給調整は、需要と供給のバランスに応じた供給ができるよう民有林等と連携した取組みを望む。
- コロナ禍による住宅着工が減少する中で原木の過剰や原木の傷みなどの不安を解消する効果があった。令和3年度の国有林材の供給調整は必要ない。立木販売は価格変動に応じた供給を望む。
- コロナ禍による緊急事態宣言の中、国有林の供給調整は調整弁として機能した。
令和3年度の国有林材の供給調整は、現状からはその使命も十分果たしたことから、全面的な供給調整は必要なく、地域の需要に応じた供給調整を望む。
- 令和3年度の国有林材の供給調整は、状況により必要があると思う。需要にマッチしたスピードで供給が出来るよう、素材生産業者や各団体、民有林と連携した取組を望む。